

厚生労働科学研究
「成人先天性心疾患の診療体系の確立に関する研究」

成人先天性心疾患患者の心理・行動の特徴とその関連要因の検討

富山大学大学院 医学薬学研究部

心理学教室 松井三枝 川名泉
小児科学教室 市田路子

先天性心疾患患者における心理的な問題

▽知的・認知的機能

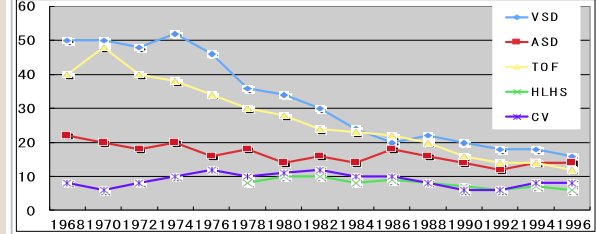
疾患の重症度(術数が多い)が高いほど
知的・認知レベルが低い。

Ex.) Fontan術後症例
粗大運動・微細運動の遅れ,
注意欠陥/多動性、高次脳機能障害。
→40~50%と高率。

Karsdorp, P. (2007). Psychological and cognitive functioning in children and adolescents with congenital heart disease: A meta-analysis. *Journal of Pediatric Psychology*, 32, 527-541.

はじめに

人口10万あたりの先天性心疾患児の死亡率



- ◎小児循環器医学の進歩により先天性心疾患患者が大人に成長。
- ◎どのような心理的発達を遂げるのか、
どのような心理的支援が望まれているのかといった検討が重要。

Masaru Terai, Koichiro Niwa, Makoto Nekezawa, Katsuhiko Tatsuno, et al. (2002)
Mortality From Congenital Cardiovascular Malformations in Japan, 1968 Through 1997.
Circulation Journal 66(6):484-488.

成人先天性心疾患患者の問題

疾患に伴う合併症
身体症状
再手術 など
+

就職、結婚、出産など
社会生活上の問題も新たに生じる。

太田真弓, (2010). 成人先天性心疾患の精神心理的問題. *医学のあゆみ*, 232 (7), 795-796.

しかし・・・

○術後の先天性心疾患患者に対する研究は18歳未満の子どもが対象。

○心理的側面を把握するため、心理検査を成人先天性心疾患患者に実施した個別の検討は少ない。

対 象

①15歳以上の先天性心疾患患者
110名のうち**65名**

②その保護者
96名のうち**54名**

◎回答に不備のあったもの、対象としなかった不整脈や染色体異常を合併している成人先天性心疾患患者 45名。

その保護者 42名は除外。

研究1 目 的

- ・ **思春期から成人期の**先天性心疾患術後患者を対象。
- ・ 対象患者の**心理的特徴**について明らかにする。

富山大学附属病院内科・小児科で実施
なお、富山大学の倫理委員会によって承認が得られている。

重症度分類

分類	診断名	人数
重症 (新生児、乳児早期に手術を経験している者及び複数回手術を受けている者)	・ フォンタン術後 ・ 修正大血管転位術後 ・ ファロー四徴症術後 ・ 両大血管右室起始術後 ・ 肺動脈閉鎖術後 ・ 重症肺動脈狭窄術後 ・ 重症大動脈弁狭窄術後	48名
軽症 (1回の手術のみの者)	・ 心室中隔欠損術後 ・ 心房中隔欠損術後 ・ 動脈管開存術後	17名

方法

①問題行動

(患者群と保護者群に実施)

AchenbackのAdult Self Report (ASR) を邦訳して使用。
(3件法：123項目)

- 不安／抑うつ
- 引きこもり
- 攻撃性
- 身体的訴え
- 思考の問題
- 逸脱行動
- 自己顕示

(患者群に実施)

②QOL (WHO QOL26・5件法26項目)

③自尊心 (ローゼンバーグ日本版尺度・5件法10項目)

④社会的スキル (KISS18・5件法18項目)

⑤認知機能の困難度 (SCoRS・4件法20項目)

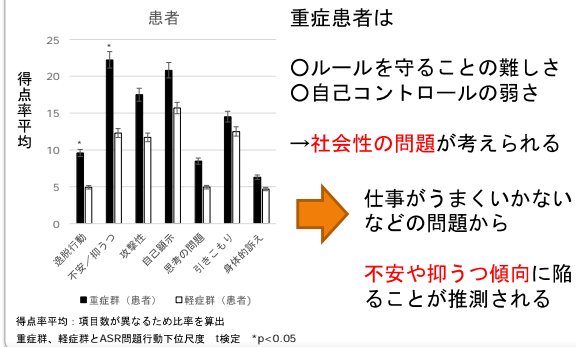
患者における各尺度の検討

結果

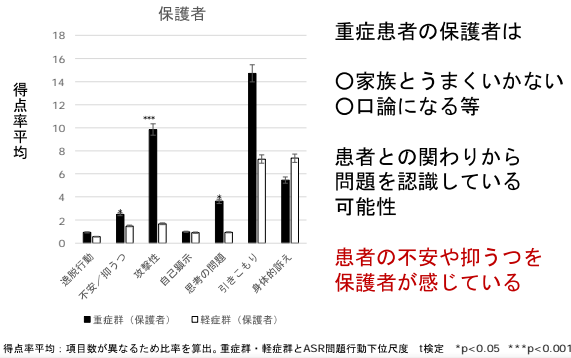
項目 (範囲)	重症群		軽症群		t検定
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
問題行動(ASR) (0~246)	50.5	28.3	35.9	24.0	+ (p=0.06)
QOL (26~130)	65.5	14.6	61.6	12.7	ns (p=0.35)
自尊心 (10~50)	31.0	6.8	33.3	5.4	ns (p=0.23)
社会的スキル (18~90)	60.3	11.2	56.7	7.9	ns (p=0.23)
認知機能の困難度 (0~60)	8.6	6.3	7.9	5.2	ns (p=0.69)

重症群、軽症群と問題行動 ASR、QOL、自尊心、社会的スキル、認知機能の困難度 t検定結果 +p<0.1

患者における問題行動ASRの検討



保護者における問題行動ASRの検討



研究2 目的

- 成人先天性心疾患患者の知能面の問題に重点を置き、**個別の症例**から明らかにする。
- 参照症例を用いて**成人期以前→成人期**知能面の特徴に共通性があるか検討。

実施検査 方法

WAIS-III

(Wechsler Adult Intelligence Scale-III) ・ (16歳から89歳を対象)
言語性IQ (VIQ) ・ 動作性PIQ (PIQ) ・ 全検査IQ (FIQ)
言語性尺度 ・ 「言語理解」、「作動記憶」
動作性尺度 ・ 「知覚統合」、「処理速度」

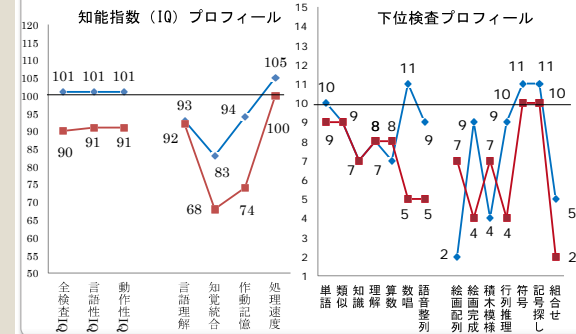
WISC-IV

(Wechsler Intelligence Scale for Children-Fourth Edition) ・ (5歳0か月から16歳11か月を対象)
・ 全検査IQ
・ 言語理解 ・ 知覚推理 ・ ワーキングメモリ ・ 処理速度

富山大学附属病院小児科外来、他病院小児科外来で実施

(WAIS-III) 結果

症例1 フォンタン術後 25歳 女性 会社員(事務): 青色
症例2 大動脈弁狭窄術後 21歳 女性 学生: 赤色



ケースによってタイプがそれぞれ異なるが、

両症例ともに、
全検査IQ・言語性IQ・動作性IQ
→平均の範囲内。

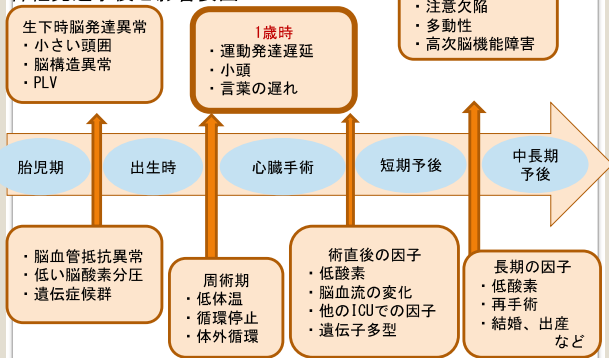
しかし、
知覚統合→平均水準以下。

視覚に基づく
知覚や認知の能力が低い傾向。
=断片を一つにまとめることが苦手など。

先天性心疾患患者の特徴 (WISC-IV)

症例	診断名	年齢	性別	WISC所見の主な特徴
症例1	単心室	8歳2か月	女	形を捉えて構成することが難しい。 指で空書きをして形を記憶
症例2	肺動脈閉鎖 心室中隔欠損	9歳9か月	男	集中力や意欲のセルフコントロールの弱さ
症例3	完全大血管転位	7歳2か月	女	マイペースで時間制限があっても、あまり焦る様子が見られない
症例4	総肺静脈還流異常	6歳1か月	男	衝動性の高さや注意集中力のコントロールの弱さ
症例5	重症肺動脈狭窄術後	6歳10か月	男	周囲の状況理解が難しく、情報の取捨選択が苦手
症例6	完全大血管転位	11歳1か月	男	注意の維持が難しい。筆圧が強く、速度が遅い
症例7	重症肺動脈狭窄症	5歳10か月	女	視空間認知や情報処理能力の低さ
症例8	肺動脈閉鎖	10歳0か月	女	視覚的情報に対する推理力、応用力の弱さ

重症心疾患児における神経発達予後と影響要因 考察



Wernovsky G. 2006 Current insights regarding neurological and developmental abnormalities in children and young adults with complex congenital cardiac disease. *Cardiol Young*. 16 suppl. 1, 92-104.

結語

成人先天性心疾患は、
・疾患自体の問題。
・疾患があることによる不安。
・保護者の不安。

心理的問題のケースは様々

重要な点

- ◎早期の心理的介入
- ◎患者自身が先天性心疾患の特徴を十分に把握できる場の提供
- ◎保護者に対する心理的支援
- ◎医療従事者に対する検討